

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小 計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
国際会議準備金	7,000,000	3,990,000	0	10,990,000
小 計	7,000,000	3,990,000	0	10,990,000
合 計	27,000,000	0	0	30,990,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
小 計	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
特定資産				
国際会議準備金	10,990,000	(0)	(10,990,000)	(0)
小 計	10,990,000	(0)	(10,990,000)	(0)
合 計	30,990,000	(0)	(30,990,000)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
該当事項はございません。

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおり
である。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	508,031	0	508,031
合 計	508,031	0	508,031

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額の残高
該当事項はございません。

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、前受金、前受会費、預り金及び未払法人税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	25,623,175	27,679,181
振替預金(会費)	9,023,979	4,877,219
振替預金	3,548,564	3,450,934
普通預金	13,050,632	19,351,028
前払金	18,000	597,200
前払費用	0	0
合 計	25,641,175	28,276,381
未払金	88,975	187,451
前受金	9,000	0
前受会費	3,894,700	2,457,000
預り金	10,406	72,954
仮受金	238,700	20,220
未払法人税等	70,000	70,000
合 計	4,311,781	2,807,625
次期繰越収支差額	21,329,394	25,918,756

3. 予算額と決算額との差異について

- (1) 学術集会事業収入のうちシンポジウム収入において、決算は予算より増額となった。
これは、シンポジウム収入と JAPAN VIS 収入が予算額よりも多かった事に起因する。
- (2) 一方で、シンポジウム論文集・プログラム収入が予算と比較して 15 万円ほど少ない結果になり、広告料収入は予算に対して 21 万円程少ない厳しい結果になった。
- (3) 学術集会等事業費支出のうちシンポジウム支出において、決算は予算より大きくなった。これは、新型コロナによる行動制限も介助され、会場における対面開催が復活した事により、会場費等の支出が増加したことの理由による。
- (4) 学会誌等発行事業費支出は、予算に対して 18 万円以上の増額となった。英文論文集支出とオンライン論文集支出額が予算を上回った事に起因している。